

目指す学校像

高き志【こころざし】

地域とともにある

勢いのある学校

No. 22(R元. 10. 18発行)文責 校長 福田雅也

「進化論」から考えたこと

小学生のころ「それでも地球は回る」という本を読んだのを覚えています。題名から分かるように、イタリアの歴史的な科学者「ガリレオ・ガリレイ」の伝記です。読書より、遊ぶことが一番だった私だったので、読んだきっかけは、ほめられたものではなく、夏休みの宿題である読書感想文を書かなければいけなかったからでした。しかし、読み始めてみると、なかなかおもしろい内容で、思っていたより短期間で読み終えたように覚えています。読んだ感想の一つに、ガリレオが生きた時代に、「地動説」などという考え方が受け入れられるはずがなかったらということがあります。宇宙から地球を見ることができる現代なら、「地動説」もすんなり受け入れられると思うのですが、ガリレオが生きた1500年代にそれを受け入れることは、一般人にはとても難しいことだと思ったのです。

科学が進んだ今の時代で、ガリレオが生きた時代のように学説等が根本から大きく変わることはないと思われませんが、まだまだ、多くの説があり議論が続いている学説は多くあるようです。その中の一つに「進化論」があるそうです。「進化論」といえば、ダーウィンの説が有名で、私は、それが確定した定説であると思っていたのですが、必ずしもそうではないのだそうです。もちろん、ダーウィンの考え方を完全に否定しているのではないようですが、現代的な「進化論」は、単一の理論ではないのだそうです。

このことを知ったのは、ある機会にこの「進化論」について次のような話を聞いたからでした。ダーウィンの説のように「自然淘汰」や「突然変異」だけでは説明できない部分が残されている。生物の遺伝子のどこか、あるいは遺伝子でもないどこかに、その生物が生きた「思い」や「願い」が刻まれていて、その「思い」や「願い」が次の世代に引き継がれ、その積み重ねが進化の要素になっているという考え方でした。あまり科学的とは思えませんが、とても興味をひかれたので、ネット等で調べてみました。しかし、「進化論」について、いろいろな考え方があることは分かったものの、このようなことを直接書いてあるサイトは見つけれませんでした。やはり、あまり科学的ではない考え方なのでしょう。

しかし、この考え方はとても素敵だと思います。「思い」や「願い」を自分の世代でかなえることができなくても、子や孫、そのもっと先の世代でなら、かなえることができるかもしれない。そう考えれば、今の自分の頑張り、それだけでなく、自分が生きていること自体に大切な意味を見出すことができると思うのです。そして、それは「進化論」の中に位置づける必要はないのかもしれない。「思い」や「願い」をしっかりと次の世代へ伝え、そして、伝えるだけでなく、自分の背中や行動で示していけば、きっとそれは引き継がれていくのだらうと思います。そして、いつの日か、自分の「思い」や「願い」が実を結ぶ日が来るのなら、本当に素晴らしいことです。

今回、「進化論」について改めて考えてみたことで、自分が頑張る意味、生きる意味をちょっと考える機会になりました。